

2025年度（令和7年）「学校自己点検・評価」

東京三友国際学院

2025年度（令和7年度）「東京三友国際学院」の自己点検・評価を実施し、その結果を以下に示す。

実施日：2026年3月25日（水）

実施時間：14時～17時

実施場所：職員室

実施者：設置代表者（鈴木）、校長（井村）、主任教員（冨澤）、専任教員（山口）

評価については下記の基準に従う。

A:実現・実行できている。

B:概ね実現・実行できているが、一部改善・改良の余地がある。

C:ある程度実現・実行できているが、一部改善・改良の必要がある。

D:ほとんどできていない。

<評価項目1>教育理念・目標と、その具体化の方法



・教育理念

「日本語教育を通して日本社会、日本文化への理解を深め、他者との共生を図り、課題解決の力を身につける学生を育成する」

・具体化のための方策

「文法・語彙などの通常の積み上げ式学習の他に、時節ごとに「マナー」「防災」などの学習目標の柱を設定し、それに沿った活動内容をクラス授業として扱う。

学習者に負担の無いように、学習理解程度が異なるクラスおよび学習者ごとに、文法、語彙などを調整しながら「生活に密着した役に立つ情報」が学べるように配慮した授業を行う。その際には多国籍の学習者との共同作業や、地域のイベントにボランティア参加するなどを通して、多様な状況で日本語を使用する機会を設定する。

<評価項目2>日本語教育機関の運営

- ① 認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。

(A) B C D

・教職員の全体会議において、確認している。

- ② 運営の透明性が確保されている。

(A) B C D

・設置代表者、校長、主任教員、専任教職員がそれぞれの職務を学則等に従い遂行している。

- ③ 運営に必要な情報が期間内の関係者間で共有されている。

(A) B C D

・各種会議において、学校の短期・中期目標等の確認を行い、非常勤を含め教職員間の情報共有及び理解に努めている。

- ④ 運営にあたり法令を遵守している。

(A) B C D

・法令に従った、報告等を遅滞なく行っている。
・コンプライアンスに関しての意識向上に努め、教職員および学生にも可能な限り周知している。
・各種ハラスメントに関しても新たに学則に定めるなど、防止対応を積極的に推進している。

<評価項目3>情報公開

- ① 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。

A (B) C D

・情報の公開を行っているが、まだ十分ではないので、更新作業を行っており、できるだけ早い時期に更新予定である。

② 募集及び納付金に関する情報を公開している。

A (B) C D

・情報の公開を行っているが、まだ十分ではないので、更新作業を行っており、できるだけ早い時期に更新予定である。

③ 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。

A (B) C D

・各種情報をホームページで公開している。また、同様の情報をパンフレットに記載するとともに、正確な情報伝達に配慮している。

④ 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。

(A) B C D

・わかりやすく整理して示している。

⑤ 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。

(A) B C D

・常に最新の情報を提供するようにしている。

<評価項目4> 入学者の募集と選考

① 適切な方法で入学者の募集を行っている。

(A) B C D

- ・募集担当者（経営者）が教育目標に合致した募集計画を立案し、募集活動を行い他の教職員と情報共有している。
- ・所属機関の職員が入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。
- ・入学希望者や海外の募集代理人に、常に最新かつ正確な情報提供を行っている。
- ・募集代理人適切性は入学した学生の現状報告や、問題発生時の対応姿勢などを通して常に確認している。

② 適切な方法で入学者の選考が行われている。



- ・入学申し込みの前に、受け入れコースの教育内容が入学志願者のニーズに合致することを本人に直接、あるいは募集代理人を通して確認している。
- ・入学選考基準および選考方法等（必要書類、学習意欲、学習能力、日本語能力等）が定められており、それに従い適切に対応している。
- ・不法残留等の発生が多い国の学生に対しては、より慎重に選考している。
- ・学習歴や日本語能力証明、検定試験結果など提出された資料を根拠資料として慎重で正確な入学選考判断をしている。

<評価項目5>教育活動

① 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。



- ・理念と教育目標達成のためのカリキュラムを編成している。
- ・学生の熟達度を特定の試験で判断するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。
- ・理念及び教育目標に適合した教材を選択している。また次年度からの教材変更を検討している。

② 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。



- ・学期ごとの職員会議や掲示物、LINEなどで教育活動の計画を教職員全体に周知している。
- ・学生の日本語能力を定期試験や日常の観察等により適切なクラス編成や運営を行っている。
- ・年度末に「授業アンケート」を実施し、学生からの評価を含め、各教員にフィードバックを行い、授業の質の向上に努めている。
- ・各学期の始まりにクラス内でオリエンテーションを開催し当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。
- ・出席簿を備え正確に記録しているのはもちろん、教育活動の振り返りと改善に活かせる形で授業記録簿（講義日報）を作成し、記録内容についてLINE等を利用し関係教員間で共有すると共に記録に残し、いつでも閲覧できるようにしている。
- ・学生の学習評価の結果については個人面談などで伝えている。

③ 授業を含め教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。

Ⓐ B C D

- ・授業後に各担当教員が授業記録簿（講義日報）に授業内容を記録する。その際に「授業の振り返り」として、教員が自身の授業を振り返り、以下の7項目において自己評価（5段階）を行うことができるようにしている（1. 時間配分 2. 語彙コントロール 3. 声量・スピード 4. 板書 5. 発話の引き出し 6. ファシリテーターとしての役割 7. 学習目標の達成）。この授業記録簿は主任・専任は全てのクラス報告に目を通し、問題点があれば速やかに対処する。
- ・3カ月ごとに担当クラス（授業）を自身で振り返り、コメント欄に記入し（言語化）→ 講師会前後に主任教員と面談を行い、問題点の改善に努める。

<評価項目6>教職員育成

① 教育力及び教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。

Ⓐ B C D

- ・3カ月ごとに「全体講師会」「クラス別講師会」を実施。教授法や効果的な教材、活動の情報共有を行っている。
- ・年1～2回、外部講師を招いての「勉強会」や、出版社主催の教授法や評価等に関するオンライン講座、教務部内での「ICT教育の実践例共有」や「教え方」「パワーポイント教材の作り方」といった任意参加の講座など、ブラッシュアップのための多様な機会を提供している。

② 教職員の自己評価等を含め多方向的な教職員評価を行っている。

Ⓐ B C D

- ・授業後の授業記録簿（講義日報）における「授業の振り返り」欄の活用。
- ・3カ月ごとに実施する「講師会」におけるレベル別・クラス別打ち合わせの実施（前学期担当者からの引継ぎやクラス担任との情報共有含む）
- ・教員同士の「授業見学フリーシステム」・・・互いに声を掛け合い、授業見学、フィードバックを行うことで、新たな気づきを獲得、より良い授業にしていく。

<評価項目7> 学生支援

① 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組みを適切に行っている。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 防犯防災を含む留学生活に関するガイダンスを定期的実施し、その効果を確認している。今年度は警察職員を学校に招き、防犯講話を実施し、また防災館を訪問して防犯防災に関する知識と意識を高めた。
- ・ 学生の行政手続等は事務スタッフを中心に教職員が一体となり支援。
- ・ 日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。地域のイベントへの参加にとどまらず、イベントでのボランティア活動などの体験を通して日本社会、日本文化への理解を深めるきっかけとなる、機会を設けている。

② 進路指導を適切に行っている。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 教務主任を中心に専任スタッフ（クラス担任）が進路指導を行っている。
- ・ 個人面談、学生へのアンケートなどで学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。
- ・ 進学及び就職に関する資料や情報を収集し、閲覧できるよう学生に情報提供している他、インターネットサイトでの情報収集の方法を実際のクラス内で体験させ自から情報収集できるよう指導している。
- ・ 卒業時に、進路及び在留資格の確認をしている。た、帰国予定の学生の場合は、実際に帰国したかどうかの追跡確認をしている。

③ 安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ オリエンテーションでの一般的な生活指導の他に、適宜流行性疾患への注意などを行い、健康や衛生面について指導する体制を整えている。
- ・ 近隣の病院、医院（クリニック等）の診療科目、時間などを把握し、重篤な疾患や障害、交通事故に遭った場合の対応及び感染症発生時の措置を定めている。
- ・ 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法等を定め、訓練を実施している。ただし、現在はすべての学生に対し、母国語の支援体制が十分とはいえない。

④ 入国・在留管理に関する指導及び支援を適切に行っている。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 出入国管理法上の留意点について、学生への通達、指導を学期開始ごとに定期的に行っている。
- ・ 不法残留、資格外活動違反等を始め犯罪行為を発生させないための取り組みを継続的に行い、発生を防いでいる。

<評価項目 8 施設・設備>

① 語学学習に適した施設・設備である。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 教室内は十分な照度があり、換気が十分になされている。また、各部屋にはエアコンが設置され、冷暖房等の空調管理がなされている。
- ・ 視聴覚教材や ICT を活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。
- ・ 授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。

② 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 法令上必要な設備を備えている。
- ・ 廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。

<評価項目 9 地域貢献・社会貢献>

① 地域貢献・社会貢献

<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> D
------------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- ・ 地域社会の住民（日本人等）と触れ合うことで、想定可能な日本語会話ではなく、実社会の現場で使う日本語を学ぶ機会を作ると同時に、地域の日本人側にも外国人と触れ合う機会となり、相互理解を推進している。
- ・ 学校所在地の東京都北区の区議や国際交流課の職員らと綿密な連絡を取り、北区が主催、共催するイベントの実行委員の手伝いとして、会場設営、会場整備などのボランティア活動を行っている。（東京北区花火大会、東京北区さくら SA-KASOU 祭り）
- ・ 地域の企画する国際交流イベントに積極的に参加するように呼びかけを行っている。
- ・ 地域の歴史を学ぶ場所（博物館、資料館）へ、学生を引率し教材では学べないことを学ぶ機会を設ける。
- ・ 異文化交流を目的としたアンケートを区から依頼され、それに応じている。

- ・上記に全てにおいて、事前学習と事後の振り返りを行い、学生のモチベーションを高め、学習内容の定着を図ると共に、全員参加ではないイベントの場合は、参加した学生が参加しなかった学生に向けて内容をプレゼンテーションし、学んだ内容を共有する。

<評価項目10 財務>

- ① 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。

(A)	B	C	D
-----	---	---	---

- ・財務状況は適切である。